100の一歩

#20 一晩に１ｋｍ

横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。
今回は、川和電気区電力掛の取組をご紹介します。

グリーンラインは、ブルーラインとは異なり、車両の上部の空間に設置している架線から集電する他鉄道でお馴染みの方式で走っています。

架線はいくつかのパートがありますが、そのうちのトロリー線と車両の天井部にあるパンタグラフが接触して電気を供給しています。

架線設備の点検・作業の１つにトロリー線バリ取りという作業があります。トロリー線の接触面の脇に、パンタグラフのすり坂とトロリー線の溶けたカスがバリ状に発生して張り付きます。長いものでは数mもの長さになり、このバリを取り除かないと、列車の走行時に剥がれて、一瞬ではありますがトロリー線と車両が繋がり電気が流れ火花が発生します。

こうした事故を防ぐために半年に一度の頻度で、終電後にバリ取りの作業を行っています。保守作業のための軌道モーターカーの作業台に乗り、専用のバリ取り器をトロリー線に押し当て、時速５ｋｍ以下で走行して除去していきます。押し当てる力によりバリの取れ方が変わり、かなりの力で押し当てないとバリが取り切れないので重労働ですが、常に安全を意識して、この作業を一晩に１ｋｍ程度行います。

このような地道な作業を積み重ねていくことで、グリーンラインの安全な運行を支えていきます。

100の一歩

#19 「あかいくつ」を安心してご利用いただくために

横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。
今回は、新型コロナウイルス感染症対策のために「あかいくつ」バス車両を改修した本牧営業所車両整備係の取組をご紹介します。

レトロ調のバスで横浜の観光スポットをめぐることのできる「あかいくつ」。桜木町駅からベイサイドエリアをめぐりながら、港の見える丘公園まで毎日運行しています。
しかし、あかいくつ車両の一部（初代あかいくつ）は、窓の開閉が出来ない構造となっており、感染症対策のための換気を行うのに大きな課題となりました。もし、車両の改造を業者さんへ依頼すると改修に数か月を要し、毎日の営業運行が出来なくなってしまいます。そこで、車両整備係が自分たちで改修作業を行うこととしました。

まず、窓の開閉方法を皆で考え議論し、窓を引き違い方式とすること、資材は廃材を再利用することと決めました。二階屋根になっている窓枠を慎重に外し、廃材で作成した窓枠を取り付けました。そして、車内側からの引き違い窓のスムーズな開閉動作確認、雨を想定した水圧テストを行い完了しました。
こうした改修の結果、常時車内換気を行う環境が整い、お客様に安心してご乗車いただくことが可能となりました。

この取り組みは、横浜市役所の中で、単に法令を遵守するにとどまらず、市民・社会の要請に全力で応えていくコンプライアンスを実践している特に優れた取組として「チーム横浜 市長賞」を受賞することができました。

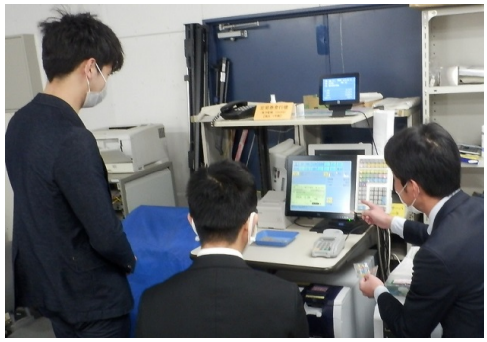
今後も私たち本牧車両整備員は、横浜市営バスがお客様への大切な「営業商品」であることを忘れず、新車に限り無く近い状態を維持するために日頃の点検整備を確実に実施するとともに、付加価値のある整備を考え、安全第一で「完全整備」に取り組んでいきます。
※写真撮影の際のみマスクを外しました。

100の一歩

#18 ご満足いただける駅を目指して

横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。
今回は、駅業務の研修についてご紹介します。

駅員の仕事というと、改札におけるお客様案内やホームでの安全確認などをイメージされる方が多いのではないでしょうか？
この他にも収入金の管理やお客様のお忘れ物の捜索、施設や設備の管理等もあり、さらに、定期券発売や異常時対応などの専門知識を要する業務が多いため、日々さまざまな研修や訓練を行っています。



今回は、定期券発行機や券売機等の取扱い研修についてご紹介します。
横浜市営地下鉄では、全駅で定期券を発売していますが、交通系ICカードは新機能の追加など日々進化しており、毎日が勉強です。

特に、定期券の発売や払い戻しは複雑なケースもあることから、操作方法や手順を確実に覚えるために、定期券発行機や券売機、改札機などを設置した研修室で、実際の機器を使った研修により、実践力を身に着けています。

お客様の多様化するお問合せやご要望について正確に丁寧に、そして迅速に対応できるように。日々の研修を積み重ねて、お客様に快適にご利用いただける駅づくりに努めています。

100の一歩

#17 技術の襷（たすき）

横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。
今回は、ブルーラインの延伸に取り組む建設改良課についてご紹介します。

横浜市営地下鉄ブルーラインは、あざみ野から川崎市の新百合ヶ丘までの延伸が予定されています。令和12（2030）年の開業を目標に、現在、交通局では、調査・設計や関係機関との協議など、日々取り組みを進めています。

ブルーラインは昭和47（1972）年の上大岡―伊勢佐木長者町開業以降、延伸を重ね、平成11（1999）年の戸塚―湘南台開業により現在の路線（あざみ野～湘南台）となりました。また、グリーンライン（中山～日吉）が平成20（2008）年に開業し、現在の地下鉄ネットワークができています。

グリーンラインの開業をもって地下鉄建設部門は解散し、多くの職員が交通局から他部署へ異動していました。しかし、延伸には、専門的な知識や技術が不可欠であるため、今回の延伸事業のために経験豊富な職員が徐々に戻ってきています。

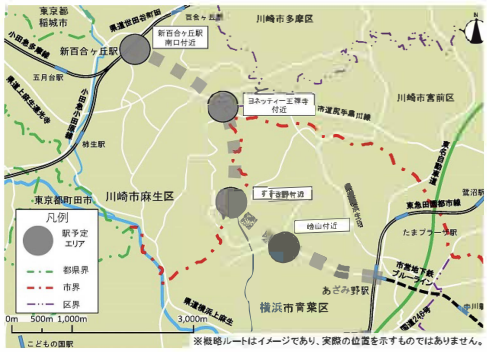
グリーンライン開業後に入庁した若手職員にとっては、初めての新線建設。ベテランの職員から、地下鉄の計画、調査、設計、手続きなど必要となる知識、技術の習得に日々励んでいます。

交通局に地下鉄建設部門が初めて設置されてから半世紀以上、「技術の襷（たすき）」は、次の100年に向け綿々と受け継がれています。

画像１枚目：上大岡―伊勢佐木長者町開通記念パンフレットより
画像２枚目：中山駅建設中の様子（2005.７）
画像３枚目：ボーリング調査の様子
画像４枚目：地下鉄開業を記念して関内駅に設置されたレリーフ「アフリカ蒸気船」の前で
画像５枚目：横浜市営地下鉄開業・延伸の歴史
画像６枚目：あざみ野駅から新百合ヶ丘までの延伸予定

地下鉄開業年月

●S47.12 伊勢佐木長者町－上大岡
②S51.9 伊勢佐木長者町－横浜
上大岡－上永谷
③S60.3 舞岡－上永谷
横浜－新横浜
●S62.5 戸塚－舞岡
●H5.3 新横浜－あざみ野
⑥H11.8 戸塚－湘南台
⑦H20.3 日吉－中山



100の一歩

#16 ベイサイドブルー乗務員インタビュー

横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。
今回は100の一歩編集部員の取材から、連節バス「ベイサイドブルー」についてご紹介します。

全長約18mと一般的な路線バスの約1.7倍の長さの連節バス「ベイサイドブルー」を運転する乗務員は、厳しい基準によって選考されており、市営バスの乗務員の中でも運転技術・サービスともにハイレベルな乗務員がその任務にあたっています。今回はその中でも、ベイサイドブルー乗務員の指導役である平井乗務員に話を聞きました。

Q．ベイサイドブルーの乗務員になろうと思ったきっかけは？
A．私の娘が、「お父さんがベイサイドブルーを運転しているところを見てみたい。」と言ったのがきっかけです。
せっかく手を挙げるのだからと、必須ではないのですが自動車牽引の免許を取得し、立候補させていただきました。ちなみに、私の営業運行で初めて乗ったお客様は娘でした。

Q．日頃、平井乗務員が大切にしていることは？
A．とにかくお客様に不快な思いをさせないこと。せっかくご乗車いただくからには、期待にお応えしたいと思っています。私だけでなくベイサイドブルー乗務員みんなが、安全に目的地までお運びすることはもちろん、サービス面でもご満足いただけるよう、日々心がけています。乗務前に朝早くから車体や車内を手で雑巾がけするのもその気持ちからです。一人でも多くのお客様にベイサイドブルーにご乗車いただき、横浜を楽しんでいただけたらとても嬉しいです。

Q．ベイサイドブルーの運転で難しいところは？
A．とにかくバスの車体が約18mと長いので、後退するのが難しいです。まっすぐ下がったつもりがその通りにいかない場合があります。搭載している何台ものカメラを見ながら慎重に運転する必要があります。
また、交差点で曲がる際も、タイヤの軌道を常に予想しないと事故につながってしまいます。 そういった意味では、ベイサイドブルーの路線の中でも、パシフィコノースでの転回場面と、第二合同庁舎前の左折場面は、乗務員の運転技術の「腕の見せどころ」です。

Q．沿線の魅力は？
A．本当に、全部魅力的だと思います。横浜のいわば「おいしいところ」だけをとったような路線です。特に、横浜の新しいスポットであるハンマーヘッドや山下ふ頭のガンダムファクトリーなどがおすすめです。帰りは中華街に寄ってみるのも良いかもしれません。

もうすぐ桜の季節となり、横浜が花と緑で美しく彩られる季節がやってきます。
是非、ベイサイドブルーで、横浜の春を感じてみてください。

文・写真：小濱絵梨（自動車本部運輸課）、及川徹也（高速鉄道本部上永谷乗務管理所）

100の一歩

#15 地元小学生とのふれあいの場

横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。
今回は、あざみ野駅での駅施設見学会についてご紹介します。

あざみ野駅で地元の小学生を対象に駅施設見学会が行われました（昨年11月実施）。
改札機や券売機の仕組み等を説明したほか、踏切非常ボタンのデモ機にも触れていただきました。踏切非常ボタンは、踏切で危険を察知した際に押す警報ボタンです。横浜市営地下鉄の沿線には踏切はありませんが、JR東日本横浜支社とも連携して、鉄道の安全について子どもたちに学んでもらいました。

子どもたちからは、「どうして駅員さんになったんですか？」や「お仕事は何時に終わるんですか？勤務時間中の食事は、どんなごはんを食べるんですか？」など質問がたくさん寄せられ、子どもたちの鉄道への関心の高さが伺えました。駅員も子どもたちの直球の質問にたじろぎながらも、少しでも分かりやすい説明となるよう、一生懸命にお答えしました。

体験学習では、日ごろからご乗車いただいている感謝の気持ちや、未来を担う子どもたちに、末永く市営交通を利用していただきたいという気持ちを込めてお迎えしています。
そして、子どもたちとのふれあいを通じて、若手職員をはじめ、駅職員全員が、お客様あっての私たちという初心に立ち返ることのできる貴重な機会となっています。

「近い将来一緒に働く仲間がこの中からできたら嬉しいな」そんな思いで子どもたちをお見送りしました。

100の一歩

#14 ベイサイドブルーの朝

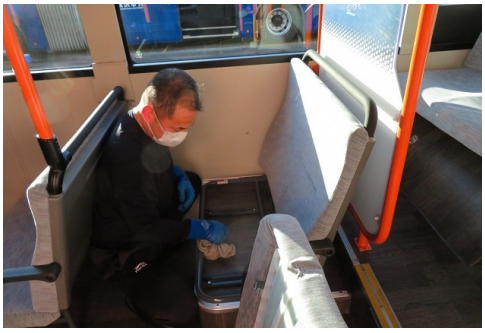
横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。 今回は編集部員からの発信で連節バス「ベイサイドブルー」の朝の様子をお届けします。

昨年登場した市営バスの新しい顔”ベイサイドブルー”。今やすっかり横浜の街にも馴染んできて、その長さから連日多くの皆様の注目を集めています。ひと際輝く車両、水面のきらめきを表現するマットメタリックブルーのデザインはいつみてもピカピカ。実は、この輝きにこそ乗務員達の熱い思いが込められているのです。

早朝の滝頭営業所。多くのバスが慌ただしく出庫する中、長い車両を必死に磨く数名の乗務員の姿。至って普通の風景かもしれませんが、手がかじかみそうな寒い冬でも、そして雨の日も毎朝欠かさず車両全体の清掃を行っています。全ては「お客様に喜んでいただくため」。その一心で一つひとつ丁寧に作業は進められます。

約18メートルもの長い車両を洗車機に通すのも一苦労。車両を洗い終えると、今度は時間をかけながら床やタイヤまで念入りに手作業で磨き上げます。車内も隅々まで磨き上げ、座席も外して目に見えない部分まで綺麗にしているのです。担当する乗務員が毎朝丁寧に、そして真心を込めて行っています。

横浜の街を彩る青い車両。その輝きこそ、乗務員のおもてなしと熱意によって再現されているのです。
”全てのお客様に気持ちよく乗っていただくために”…これからも、市営交通の「顔」として輝き続けます。



文・大越　裕希（新羽乗務管理所）

100の一歩

#13 小さな安全を積み重ねるために

皆さん、駅のホームでヘルメットや反射ベストを着用し、長いハンマーを持った交通局の職員を見たことはありませんか？

それは、路線を検査する施設区職員です。
上永谷施設区が検査を行っている路線の範囲は、関内～湘南台間の約20㎞。上下線、左右のレールの総延長は約80㎞、おおよそ横浜から富士山までに相当する距離にもなります。

検査はレールのほか、約７万本のマクラギやレールを支持する約28万個のボルト、バネ、多くの継目板など、付属装置を含め多岐に渡ります。この検査範囲を約10日間かけ、毎日、人の手と目で一歩一歩、着実に検査を行っています。

検査の大半は、営業中の電車が走行する合間を縫って行われています。それには、十分な安全を確保するため、作業前に打ち合わせや危険予知ミーティングなどを実施し、適切な場所に監視員を配置します。さらに、列車の接近を検知する安全装置も使いながら線路内に入場します。

　しかしそれだけでは十分ではありません。永年にわたり線路を検査しているプロが持ち合わせる経験や知識、例えば列車の風圧や音、振動などを察知する能力も駆使しながら安全に線路検査を進めています。

このように一つひとつの小さな安全を積みかさね大きな安全を築きあげています。

見える安全、見せる安全、ゴールのない安全を目指して。
今日も検査を行っています。

　※本ページの画像は、安全な場所で監視員を配置し撮影しています。

100の一歩

#12 バス乗務員の養成

横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。今回は、新入乗務員の実技教習について、編集部員（バス乗務員）からの発信でお送りします。

横浜市営バスでは、大型自動車第二種免許を持っていなくても乗務員を目指せる、バス乗務員養成コースや、バス乗務員免許取得支援コースの採用を積極的に行っています。このたび、この制度を利用して入局した乗務員の研修風景を取材しました。

交通局の敷地内に教習専用のコースを設け、S字、クランク、車庫入れ、バス停付けなどの課題の訓練を行った後で、一般道路の実際の路線を走ります。

この日に取材したバスには二人の新人乗務員が乗り、運転しました。踏切や、信号のない交差点、狭あい道路とさまざまな場面に対応できるよう、教官の丁寧な指導のもと、あらかじめ決められた一般道路のコースを二人とも無事走り切ることができました。まもなく迎える、研修修了のための試験に合格できることを祈っています。

最近では、バス乗務員経験者に限らず、様々な業種から入局される方が増えました。今回取材した新入乗務員のうち一人は、前職がお寿司屋さん、その前は大型トラックの運転手さんで大型一種免許は持っていたそうです。本人曰く、トラックの運転の癖が抜けないのが課題で、早くバスの優しい運転に慣れることが目標とのことです。

私もまもなく乗務員経験14年目を迎えます。今回の新入乗務員の研修に参加したことで、決して他人事とは思わず、「安全」の重みを肝に銘じ、次の100年を担う者として新たな気持ちで明日からの乗務に励みたいと改めて思いました。

文・小川鐘一郎（浅間町営業所）、写真・新井睦軌（保土ケ谷営業所）

100の一歩

#11 24時間地下鉄を見守り続ける目

横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一歩”。今回は、地下鉄電気司令の業務についてご紹介します。

地下鉄の司令室には、地下鉄の運行を見守る運輸司令と、地下鉄の走行や駅の運営に必要な電力を操る電気司令があります。電気司令では、地下鉄の安全な運行を確保するため、地下鉄や駅への電力供給を24時間休むことなく監視しています。

最近、強い台風や、局地的な豪雨・雷雨が発生し、停電が多いと感じることがありませんか？地下鉄に乗っている時や、駅にいる時に停電になったら…と考えると、とても不安ですよね。

でも、ご安心ください。
地下鉄にはブルーラインに18か所、グリーンラインに３か所の変電所があり、停電などの異常時には、隣の変電所から電気を分け合うことで、早期の運行再開に向けて対応しています。また、エレベーター故障や列車の安全運行に必要な設備の故障についても、即時に保守職員へ通報するとともに、運転士や駅職員などとも協力しあい、地下鉄の安全な運行を守り続けています。

司令の仕事は、24時間休むことがありません。
お客様に地下鉄の安全・確実・快適な運行をご提供するため、これからも、しっかりと見守り続けていきます。